

## 脳梗塞に対する予防的外科治療の効果の科学的評価と治療リスク軽減に関する研究

### 研究概要

脳梗塞はもとよりもやもや病 やくも膜下出血、脳出血など脳血管障害に対して脳循環代謝からみた脳血管障害の病態解明を基礎的研究を通じて安全な脳血管障害の外科治療法を開拓してきた。特に、椎骨脳底動脈系の血行再建治療に関しては、椎骨動脈基始部閉塞病変に対する鎖骨下動脈—椎骨動脈 **transposition** や脳底動脈閉塞病変に対する浅側頭動脈—上小脳動脈吻合術を外科治療の基本として確立し、脳循環代謝から見た治療効果を証明した。最近では、虚血性脳血管障害に対する血行再建術の知見をもとに椎骨脳底動脈解離性動脈瘤に対する血行再建術を用いた手術法を新たに開発し報告してきた。

浅側頭動脈—中大脳動脈吻合術については国際的に **Barnett study** でその効果が否定されたが、世界的にも効果のある症例がある可能性が示唆されていた。本症に対して全日本の多施設共同ランダム化比較試験として **JET study (Japanese EC-IC bypass trial)** を組織し、**Inclusion criteria** に脳循環検査を加え、厳密な **study design** を準備し外科的血行再建術の再発予防効果を証明した。本研究は日本において外科治療に対するランダム化比較試験のモデルとなっている。また、脳梗塞急性期治療として血管内手術による局所線溶療法の効果を実証する **MELT Japan (MCA-Embolic Local Fibrinolytic Intervention Trial)** を組織し療法群で有意に社会復帰率を改善することを証明した。

これらの研究を通じて診断、治療、評価に関する標準化の推進が必須であることを痛感し全国標準化を推進してきたが、**CT**、**MRI** や血流検査の標準化に関する研究が厚生労働省科学研究費行われるようになったことは誠に喜ばしい。今後、多施設共同臨床研究はますます重要性を増すものと思われる。今後ともその推進に努力したい。さらにライフワークである脳循環代謝からみた病態解明研究を通じてより安全な外科的治療法の確立に関する研究を進めていきたい。